

訃報

石田晴久名誉教授

大型計算機センターで長らくご活躍いただいた本学名誉教授 石田晴久先生は、平成 21 年 3 月 9 日にご逝去されました。享年 72 歳でした。

先生は、本学大学院で修士修了後、アイオワ州立大学で Ph.D. を取得され、マサチューセッツ工科大学研究員、電気通信大学助教授を経て、高橋秀俊センター長時代の昭和 45 (1970) 年に設置 5 年目の東京大学大型計算機センターに助教授として着任され、昭和 57 (1982) 年教授に昇任、以後平成 9 (1997) 年ご退官まで、大型計算機センターの発展拡充のためにご尽力いただきました。

本学退官とともに名誉教授となり、以後、多摩美術大学教授を経て、サイバー大学 I T 総合学部長を務められました。

この間、Internet Society 副会長、日本インターネット協会会長、日本ネットワーク・セキュリティ協会会長などの要職を務められるとともに、情報処理学会フェロー・名誉会員に選出されております。

計算機科学分野の新潮流を次々と紹介され、Tiny BASIC, UNIX, DTP, インターネットなど、本邦初演を多数行われ、それぞれ日本における最も初期からの研究に携わってきました。特に日本のインターネットの礎を築かれ、その先見的な取組が今日の IT 社会の基盤の構築に繋がっていることは、先生の着眼の鋭さを示すものとして銘記される業績となっています。

また、多くの著書・翻訳をものにされ、代表的なものとして『UNIX』(共立出版)、『新パソコン入門』(岩波新書)、カーニハン、リッチーの『プログラミング言語 C』などがあります。

大型計算機センター在職中は、研究開発部長を長らくつとめられ、新システム拡充計画の推進、計算機科学分野の成果をセンターサービスに活かすなど実践面で活躍されました。特に、UNIX のソースコード・ライセンスの導入については、昭和 49 (1974) 年の Version 6 を皮切りに、昭和 59 (1984) 年の UNIX System V, Release 2.0 International Version の導入に当たっては、東京大学の包括的なライセンスを取得して今日のサイトライセンス契約の嚆矢となりました。BSD についてもいち早く昭和 54 (1979) 年に 3 BSD のライセンスを取得したほか、C 言語については IBM 機及び互換機上で動作するコンパイラである C/370 のライセンスを昭和 53 (1978) 年に取得し、それぞれ試験研究を通じて後の利用者サービスに繋がり、今日の UNIX 隆盛を導くものとなっていきました。さらに、本スーパーコンピューティングニュースの前身である大型計算機センターニュース編集長として、利用者への広報の充実に貢献されました。

先生の生前のご尽力ならびに計算機科学の普及に関するご功績に深謝するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集幹事